

## 【案件概要】

# アガゴ県アクワン中高等学校における理科実験棟建設計画

## 1. 計画の概要

被供与団体	アクワン中高等学校
供与額	76,286米ドル
署名者	オチャン・フランシス・ベン（校長）
計画名	アガゴ県アクワン中高等学校における理科実験棟建設計画
実施地	アガゴ県パイモール準郡（ウガンダ北部）
供与内容	理科実験棟（椅子120脚、テーブル3台、教員用椅子3脚及び貯水タンクを含む）
贈与契約署名日	2016年1月27日

ウガンダ北部に位置するアガゴ県は、2010年に新しい県としてパデル県から分離独立しました。2006年の紛争終結まで政府軍と反政府軍による紛争が20年間続き、社会経済基盤が荒廃しました。同県パイモール準郡に所在するアクワン中高等学校は、2006年にウガンダ政府支援学校として設立され、現在生徒683人及び校長を含む教員24人が在籍しています。当国政府は2007年から生物、化学及び物理の3科目を中等教育の必須科目として指定し、教育省の定める中等教育カリキュラムでは、全ての理科科目において週1時限の実技授業を取り入れるように推奨されています。アクワン中高等学校では実技授業を週1回行っていますが、危険物を取り扱う理科の実技授業では、当国政府の安全基準を満たした実験室がなく一般教室で実技授業を行っています。また、同校では、政府が実施する高校レベルの全国統一試験は設備不備のため実施することが許されておらず、ほかの科目に比べ理科系科目の成績が極めて低い結果となっています。本計画では、理科実験棟が建設されることにより、理科科目を受講する中学1年から6年までの生徒683人が、生物、化学及び物理の実技授業を安全かつ効果的に実施できるようにします。

## 2. 贈与契約署名式

2016年1月27日、在ウガンダ日本国大使館において、藤田順三大使とオチャン・フランシス・ベン校長の間で贈与契約が署名されました。

プレスリリース(英語)

写真